

活動ピックアップ!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 長岡 みんなのSDGs

長岡地域 Nagasaki 不登校の親の会「つながりサロン」

自然体でいられる居場所づくり



全ての子どもが安心安全に学び育つ地域を目指し、保護者同士が集まり悩みを話せるお茶会「つながりサロン」、そして学校が苦手な子どもと親が集まり活動しながら学ぶ居場所「自由学校」を運営。子どもも大人も平等に、参加者が自然体でいられるような居場所づくりを心掛けています。今後は同じ想いの大人がつながることによって、誰もが差別されることなく生きやすい社会を作っていきたいです。

12 つくる責任 つかう責任 株式会社ナレッジライフ長岡オフィス (ピュアヴィレッジ長岡)

未来の暮らしを守る家づくり



「人と街と地球にやさしい家」というコンセプトのもと、国産木材と自然素材を使った新築注文住宅を建てているハウスメーカーです。日本の豊かな森林資源を無駄なく活かすため、建築中に出た木の端材をDIYや薪ストーブの焚付材として配布や販売し、売上の一部を環境保全活動に寄付。今後は建設に携わる多くの人とSDGsの理念を共有し、あらゆる業界が同じ考えで協働していくことを目標にしています。

市民活動 虎の巻



「解説動画」はこちら!

研究テーマ SDGsを合言葉に企業とマッチング!

ビジネスの世界でもSDGsが共通言語となっていますが、事業者だけでは「そもそも何をしたらいいのかわからない」と感じているところは少なくありません。そこで地域社会を良くしようと取り組んできた市民活動は近年広がるSDGsのビジョンと相性バッチリ!市民活動に取り組む団体と協働することでSDGsに取り組む企業をご紹介します。

その1 人材協力



15 陸の豊かさも守ろう
企業×団体 長岡信用金庫×特定非営利法人関原里山・ぬかやま会

地域の中小企業を支える金融機関・長岡信用金庫は、長岡市西部丘陵東地区一帯で土地本来の植生による森づくりに取り組んでいる特定非営利活動法人関原里山・ぬかやま会の活動にNPO新潟県山野草をたずねる会と共に人材協力という形で参画しています。劣化した森林を回復し、森林減少の防止に役立つと取り組んでいます。

その2 製品の提供



2 飢餓をゼロに
企業×団体 あげ家松兵衛×新町みんな食堂

栃尾地域であぶらげの製造・販売を行う、あげ家松兵衛は、月に1度の夕食会で人とつながりを育む「新町みんな食堂」の活動に共感し、あぶらげなどの食材提供を行っています。食材提供はまだ食べられるのに破棄されるフードロスの削減につながり、全ての人々が安全かつ栄養のある食料を十分得られる社会の実現に貢献しています。

その3 場・機会の提供



10 人や国の不平等をなくそう
企業×団体 雪鹿(長岡緑地環境協同組合)×ゆいジョブ

千秋が原ふるさとの森の中にあるジェラート店「雪鹿」は、支援を必要としている子どもの就労体験活動を行うゆいジョブの活動の受け入れを行っています。活動するのは長岡高等総合支援学校の3年生。お店のテーブルふきや、お花の水やりなどを実施しています。職業体験の場を提供することは、社会的、経済的および政治的に排除されず参画できる力を育む機会を生んでいます。

異文化から学ぶ 協働のヒント



知る、つながる、好きになる
ながおか市民活動情報誌

センターからのお知らせ

広報物の作成に役立つ「七つ道具」

多くの枚数を「印刷したい」、配布のため「まとめたい」。そんなときは、協働センターに常備してあるチラシ・情報紙づくりに役立つ「七つ道具」を使ってみませんか?何と!全て無料で使えます!

- 1 印刷機
原稿と印刷用紙を持ち込み、チラシなどを白黒印刷できます。
※1原稿につき印刷枚数50枚以上3,000枚以下でお願いします。
 - 2 紙折り機
B6~A3までの用紙を2~4つ折りにできます。
 - 3 丁合機
複数の書類を簡単に組み合わせられます。
 - 4 穴あけパンチ
 - 5 大型ホチキス
 - 6 裁断機
 - 7 ラミネーター
※ラミネートフィルムは各自ご用意ください。
- 利用時間
9:00~19:00(土日祝は17:00まで)

発行

ながおか市民協働センター

〒940-0062
長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel. 0258-39-2020
Mail . contact@nagaokakyodo.net



配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

特集
ガーヴィー・春龍さん
齋木 ナヤニさん
アレハンドロ・マルティネスさん

NAGAOKA PLAYERS
金内 美幸さん
活動ピックアップ
不登校の親の会「つながりサロン」

長岡みんなのSDGs
株式会社ナレッジライフ長岡オフィス(ピュアヴィレッジ長岡)



ながおか市民協働センター

異文化から学ぶ協働のヒント

～「なぜならば」で人はつながる～



ガーヴィー・春龍さん

2008年来日。蓬平町の慶覚寺で僧侶を務めながら、アメリカのスタンフォード大学に籍を置き、AIについての研究も続けている。現在、町おこしのため、複雑な社会の中でストレスを抱えている人を癒す坐禅とヨガを組み合わせたイベントや、蓬平温泉と協力したイベントを準備中。



齋木 ナヤニさん

1999年来日。長岡市北山にあるスリランカ・アーユルヴェーダ家庭料理店「あ〜ゆぼ〜わん」のオーナー。起業前は、コミュニティセンターでの夏休み中の子どもの見守り活動や安全パトロール部隊に参加。現在は、妊婦さんの通訳ボランティアをしている。



アレハンドロ・マルティネズさん

2020年来日。長岡技術科学大学機械創造工学課程を卒業し、現在はイノベーション専攻に所属。同大学の国際交流サークル「NUTISA」の代表を務め、学外の団体と一緒にイベントを開催するなど積極的に活動中。

皆さんは、周りの人との意見や価値観の違いに悩んだことはありませんか。童謡詩人・金子みすゞは、自身の詩の中で「みんなちがって みんないい」という言葉を残しました。しかし頭では「みんないい」とわかっていても、実際には心の底から納得するのは難しいことも。特に、市民や企業、行政など異なる主体が協働する市民活動では、意見や価値観の違いで衝突してしまうこともあるのではないのでしょうか。今回は、海外から日本に移り住み、多くの「違い」と向き合いながら暮らしている3人の市民の方に、市民活動団体が違いを受け入れ合いながら、お互いを活かして活動していくためのヒントを伺いました。

海外から来たからこそ見えるもの

— 同じ場所に長く住めば住むほど、自分が住んでいる場所を客観的に見るのは難しいもの。まずは海外から来たからこそわかる、日本や長岡の良さについて教えていただけますか。

ナヤニさん(以下、ナヤニ):日本は治安が良く、子どもたちが歩いて通学していたり、女性が一人で夜遅くに歩いていたりに驚きました。

春龍さん(以下、春龍):最初は、予約制ではない病院があることに驚きましたが、日本には病院が多くあり、必要なときにすぐに行けるので便利だと思うようになりました。

アレハンドロさん(以下、アレックス):便利と言えば、長岡市に引っ越したときのほぼ全ての手続きが、アオーレ1ヶ所ですることができるのは便利だと思います。メキシコだと、手続きごとに街中を移動しなくてはいいけません。

— 逆に、理解したり馴染んだりするのが難しかったことはありますか。

ナヤニ:相手の考えていることがわからずに困ることがあります。日本人は、考えていることや感情を表情に出さない人が多いので、察するのも難しいです。

アレックス:確かに。研究室のメンバーに、自分

の研究について意見を求めても、何も言ってくれないことが多いです。思っていることがあれば、言ってほしいのに…

春龍:私は以前、英会話講師をしていたのですが、生徒に質問をしても発言してくれず困ったことがありました。答えを知っていても、間違いが怖くて発言しない子どもが多いです。意見を言うことに重きを置いていない教育の影響もあるかもしれませんが。

違いとの向き合い方

— そういった違いと、どのように向き合ってきましたか。

アレックス:相手のルールに合わせてみることを大切にしています。銭湯によくある「タトゥー禁止」など、なかなか腑に落ちないルールもありますが、合わせてみることで生きやすくなると感じています。

春龍:時間はかかりますが、合わせているうちに「良い」と思えるようになることもありますよね。私は、誰かと話し合うときには、相手を受け入れられる精神的な余裕を保っておくことが大切だと思っています。

ナヤニ:「話す」ことは大切。私は「わからないのは当たり前」と割り切って、疑問に思ったことは、ちゃんと相手に聞くようにしています。それぞれ



ナヤニさんと写っているのは、お店の常連さんとお孫さん。

生まれ育った環境や文化が違い、それぞれに個性があるから、わからないのが当たり前。私たちはみんな同じ人間であっても、それぞれに個性がある違う生き物であることを忘れてしまうと、トラブルになってしまうと思っています。



2021年に開催したお寺体験イベント。参加者は、坐禅や精進料理を体験した。

「違い」は「間違い」ではない

— 話し合うことが大切だとわかっていても、日本では自分の意見を伝えるのが苦手な人も多いです。

春龍:アメリカの子どもたちは、発言することは良いことであると教えられます。同じことを聞きたいけれど発言を躊躇してしまう人が他にいる可能性を考えれば、そうした人たちが代表して発言することになり、それは立派なこと。仮に自分の意見が周りや違ったとしても、聞いている人は異なる視点を学ぶことができますよね。

— 同調圧力の強い日本では、「違いは間違い」と捉えられがちです。市民活動団体の中にも、衝突が怖くて意見を言えなかったり、異なる意見でメンバー同士が衝突してしまうこともあります。

アレックス:日本では、周りの人から「違う」と指摘されることをネガティブに捉えがちですが、それは自分の成長のチャンスと捉えることもでき

ると思っています。**ナヤニ**:自分が正しいと思っていることが、相手から見ると間違っていることもありますよね。数字の「6」が、見る方向を変えれば「9」に見えるように、意見が対立したとしても、相手の立場に立てば、その背景を理解できることもあるのかもしれない。

アレックス:そのためには、色々な場所に行って色々な人に会い、視野を広げることが大切だと思っています。私も、他の団体と一緒にイベントをすることがありますが、市民活動もその手段のひとつです。



一緒にイベントをしたこともある、市民活動団体WA!!との一枚。

長岡に市民協働条例ができて変わったことの一つは、市民の中にワークショップという考え方が広がったことだと言われています。ワークショップは、異なる意見を排除せず、みんなの意見を上手に取り入れながら、一つの結論を導き出す場所。それは「違いは間違いである」という認識の下では成立しません。正解の反対は不正解ではなく、もうひとつの正解のはず。自分と異なる意見や価値観をもった相手であっても、その背景や理由を理解することでお互いに歩み寄れるのではないのでしょうか。そうした一つひとつの積み重ねが、誰一人排除しない「協働のまじりくり」につながっていきます。

NAGAOKA ウワサのあの人にインタビュー! PLAYERS

金内 美幸 さん

47歳/司会業/
障がい児ママサポートかけはし
～長岡～代表

1974年福岡県生まれ。長男(10才ダウン症)長女(8才)の2児の母。家族の体験を題材にした書籍が10月に完成し、販売を開始した。



我が子の友だちづきあいが書籍製作の原点に

長男の出産から数週間後のこと。彼がダウン症だと知らされてから、金内美幸さんは戸惑いの中で子育てをしてきました。我が子のことで迷惑をかけているのではないかと感じ、とにかく周囲に頭を下げる毎日だったと言います。

謝り続けた保育園での3年間。卒園式の日にお友達のママさんから掛けられたのは、意外にも「関わってくださってありがとうございます。うちの子が優しい

子に育ちました」という言葉でした。「友人たちは幼少期から共に過ごす中で、息子への適切な対応や言葉かけが身についたというのです。それまで抱えていた、どこか後ろめたい気持ちが、感謝の気持ちに変わりました。

金内さんは、親子で経験したような、幼児期における障がい児と友だちとの関わりが多様な世界や人々を受け入れる心を育み、彼らが大人になったときにその

子らにも伝わる、その連鎖こそが共生社会につながると想像し、自身の経験を世間に広めたいと考えるようになったそうです。想いを共有できる協力者もでき、自身と似た境遇にあるママたちに寄り添う団体の運営、イベントや発達障がい児用の支援グッズ販売などにも取り組んできました。

2021年、金内さんは自分の経験と想いを形にして多くの人に伝えたいと、絵本の製作を思い立ちます。本づくりという未知の分野で、出版経験者やデザイナーなどの専門家との幸運な出会いも後押しになりました。親子で読み、

読後に対話が生まれるような工夫も取り入れ、構想から一年あまり、最終的に絵本は漫画本という形で完成に至りました。

「書籍出版はスタート!学校に寄贈するなどして多くの人に読んでいただき、要請があれば講演活動もしていきたい」と語る金内さん。

「さまざまな立場から読めるよう、当事者ではなくその友だちを主人公にしました。事前に読んだ方たちからは共感した、感動したとおっしゃっていただいたので、多くの方が待ってられている漫画だと信じ、広めていきたいと思っています」。



協力者との話し合いを重ね完成した「トモトモ〜ダウン症の友達と共に〜」